幼稚園から来た子ども

山内智子

〝幼稚園から来た子どもについて、幼稚園を経ないで来た子どもと比較して、よい点、悪い点を書いて下さい〟という編集部のご依頼を受けて、簡単にお引受けしたものの、いざペンを取ってみますと、私には、荷が勝ちすぎた気がします。といいますのは、私は学校を卒業してすぐ一年生四十名を受持ち、そのまま持ち上りましたので、経験も浅く、僅か四十名の事例しか持ち合わせておりません。又現在三年生になった子供達は、入学後の様々な影響を受け、幼稚園から来た子どもとそうでない子どもと比較してみることもむずかしいように思います。又、正直に言って、この二年と八ヵ月—特に最初の一年は無我夢中で、子供を静かに観察し研究する余裕に欠けていました。その上、自己反省しますと、小学校教育の枠の中にはまりこんで、子ども達の生いたちに眼を向け、将来の方向を考えるということが出来なかったように思われます。又、子ども達の通っていた幼稚園が五つ、保育園が二つありますが、その幼稚園保育園との連絡も殆んどありません。不勉強の至りでお恥ずかしいのですが、子どもを通しておぼろげながら幼稚園の様子を知り、お母さん方のお話から色々想像する程度で、実際参観したのはW保育園のみなのです。こんな状態で、この問題を云々するのはおこがましい気がします。更に、このテーマについて考えていきますと、幼稚園から来た子どもと言っても、公立の小学校の場合と違って、設備も、経営の仕方も、保育内容もかなり差があり、従って通園した子ども達もそれぞれ異った影響を受けているわけですが、それが家庭環境とからみあい、簡単に結論めいたこともいえません。又、家庭からすぐ入学したものも、私の学校の場合は家庭差が激しく、比較と言ってもなかなか容易ではありません。もっと数多くの事例に当り、色々の角度から分析すべきであり、そうすれば興味深い問題だと思うのですが、時間的余裕もありませんので、極めて漠然とした感想にしかすぎませんが、次に述べてみたいと思います。

私の組の子ども四十人中、幼稚園を経て来たもの四人、保育園を経て来たもの八人です。そのうち幼稚園は三つの幼稚園から、保育園は二つで、共に私立の保育園です。家庭状況やお母さん方の話から察しても二つ共、普通の幼稚園に近いように思いますので、両

者を一緒にして考えたいと思います。なお、一年保育―六人、二年保育―二人となっています。

1　学校生活への適応

幼稚園の時から問題児で口を開かなかったというI子を除いて、幼稚園、保育園から来たものは学校生活に慣れるのが早いようです。それに比べて家庭の枠の中で暮していた子ども達には、入学の喜びと期待のかげに何かしら不安があるのはかくせません。入学式の時お母さんと離れるや泣き出したH、又、教室ですぐ眼に涙を一杯浮かべるI、一学期間黙ったまま殆んど口を開かなかったI子の場合は、特殊な事情（病弱、ひとり子、家庭内の不和）によるものでもありますが、同年齢の子どもと遊ぶ機会が少ないため心理的な離乳が出来ず、社会性が著しく欠如していることが原因していると思われます。こうした性格は、其後の学校生活の障害になって来ますので、幼児に於ける団体生活をさせることは非常に重要だということを改めて感じさせられます。

幼稚園、保育園から来た子どもは社会性あり、友達とも先生ともすぐ親しくなって、適応が早いのですが、しかし、私達が非常に扱いにくい例があります。例えば、Mの場合、三年間保育園で生活し集団生活になれきっている為緊張感は全くありません。その上、Mの行っていた保育園が、自由保育で個性をのばす教育をめざしているせいか、のびのびとしていて個性的でおもしろいと思うのですが、幼稚園での遊びの気分が抜け切らず、又自分の好きなことをやりたがり、そのため教室の空気をこわしてしまうこともあり、未経験の私には非常にやりにくかったように思います。これは、教師の指導如何にもかかっているのかもしれませんが、五十人六十人という多人数学級では扱いにくい子どもだと思います。もう一つの例で、Yの場合、両親とも働いており、本人は三年保育を受けました。保母さんからいちいち世話を焼いてもらったらしいのですが、入学後もそれを求める。そして、そういう扱いをしないとすねるのです。

この二つの例のように、子供は幼稚園の時の気分の延長で、又同じ様なことを要求し、それが受入れられないと不適応を起す場合があります。幼稚園から来た子どもの中で、社会性あり、発表力にもすぐれていながら、自己中心的な段階を脱していない子どもが、組の空気を占領してがちであり、そのために、おとなしい消極的な子どもが圧倒されてしまうので、教師にとってそこの調整がむずかしくなるわけです。

2　基本的習慣

入学して一学期間、私達は子ども達に学校生活をしていく上に必要な基本的な習慣（清潔の習慣、お手洗を上手に使う、好ましい食事の習慣、安全についての習慣、その外、遊んだあとのあと片づけ、約束を守る、道具を大切にする、廊下を静かに歩くといった習慣）を養うことを重要な目標にしています。この指導は幼稚園でも力を入れていることだと思うのですが、幼稚園、保育園から来た子どもがこういう面で必らずしもよくしつけられているとはいえません。私の学校は、約三分の一が家庭で内職をやり、ついて時間の余裕のない上父兄の教養も低いので、子どもに対する教育的な配慮も少なく、しつけも出来ていません、又、この地域は幼稚園、保育園へ

行っている子ども少ないので、入学後、この方面の指導には苦労させられるのですが、小学校へ入ってからでは遅いという感じがします。従って、幼稚園に期待する所も大きいのですが、こういうしつけは幼稚園内で出来るものでなく家庭と一体となってやるのでなければ効果があがらないので、父兄の協力の薄い所では充分にいかないのだと思います。

3 リズム感覚

幼稚園保育園から来た子ども達に共通して見られることは、音楽を好み、特にリズム感覚が発達していることです。私の組には、幼稚園を経ないで来た子どもの中に音痴が二、三人います。音痴は小さい頃の音楽的環境が悪かった（特に周囲の人が音痴だったりする場合）ために出来るものといわれていますが、幼稚園保育園から来た子どもは、この点大変恵まれているようです。最近、ラジオ等の影響から歌を覚え音楽に親しむ機会も多いわけですが、逆に妙な歌を覚えたりして、音楽的に好ましい環境にあるものは少ないといえましょう。とりわけ、家庭に楽器のある家などは殆んどありませんが、幼稚園で早くから楽器に親しませている所もあり、そういう所から来た子ども達は、リズム感覚があるようです。

4 ゆ う ぎ

リズム感覚と関聯して思うことは、幼稚園保育園から来る子どもはゆうぎを好みます、幼稚園とゆうぎと切り離せない程だからでしょう。音楽を通して体を動かすことを楽しみ、又体がよく動きます。一、二年ではゆうぎを誰でも好むことなのですが、中には体のバランスの取れないものがいるのです。この様な身体活動も、小さい頃からの練習が必要なのだと感じました。

5 知 的 活 動

では、もう少し他の角度からこの問題を眺めていきましょう。知的活動という面から考えて、思い浮かぶことは、

○幼稚園保育園から来た子どもは、コトバが発達している。
○数的能力も発達している。
○読み書きが一応できる。
○知識が豊富である。

等ですが、私がここで懸念することは、最近の幼稚園保育園での教育が小学校の準備教育のような傾向になって来たのではないかということです。Y保育園から来たA子は保育園で五十音を勉強したのだといって、「あいうえお、かきくけこ、……。」と唱えてみせてくれました。よく聞いてみるとおべんきょうの時間があるらしいのです。特殊学校への入学率がよいことで評判になっているT幼稚園は、知能テストの練習のようなものを何回もやるのだと聞きました。反対に、読み書き等一際教えない方針だというW保育園に通っていた子どものお母さんから、「あそこの保育園は読み書き全然教えてくれないので、自分の名前も書けないんです。あそこから特殊学校への入学はむずかしいというので、Aさんはお子さんを○○幼稚園へ変えておしまいになりました。」という話を聞いて、まだまだ幼児教育についての一般の理解が浅いことを感じさせられると共に、今の世の中の生存競争の激しさ、上級校への進学のむずかしさ等から親が神経質になり、早くから知識教育、読み書き教育をやってほしいという要求が、幼稚園保育園を動かしているのではないかという気が

しました。こういう傾向は、今の小学校でもあるのですが、特に幼稚園での教育が知識偏重の傾向に押されて幼児教育の本来の目的からはずれているのだとしたら、憂うべきことだと思いました。

W保育園から来たMは、三年間幼児教育を受けた子どもですが、リズム感覚が発達しており、又お話を聞くのが大好きで、大変発表力もあります。又、観察力が豊かで、虫など実にくわしく調べており感心させられることがあります。家庭はブリキ屋さんで小さい子どもがいるのでMに対し特別の教育をしているわけではないのです。W保育園から来た他の三人ともそういう方面がすぐれているのですが、たまたまW保育園を訪ずれた時、幼児の自然観察に力を入れているとうかがって成る程とうなずけたのです。発表力とか、思考力とか、観察力といったものも、〝幼いうちからはぐくんでいくことはとても大切なことだと思います。

6 創造活動

私の学校で、図工指導に熱心な先生が、今年の夏、長野で開かれた創造美育ゼミナールに参加し、その討論の席上で、〝幼稚園からた子どもに観念的な絵を書く子どもがいて困る〟と発言したら、〝いや、幼稚園での図画教育は創造力をのばすという方向へ行っている。むしろ、小学校の方が遅れているのではないか。せっかくよい絵を画いていた子どものびなくなっているよ〟といわれたという話をしていらっしゃいました。このことは、現実にはどちらも図工教育に於て創造性の重要なことが考えられていないのではないかと思います。私の組でも幼稚園から来た子の中に観念的な型にはまった絵しか画かない子どもがいました。しかし、問題は単に絵だけでなく教育の中でどれだけ創造性がのばされているかということなのだと思います。

以上幼稚園から来た子どもと幼稚園を経ないで来た子どもと比較してみたのですが、事例も少なく、ただ思いつくまま書いてしまいましたので、私の独りよがりな見方もあると思いますので御批判いただければ幸いです。

（筆者は文京区立大塚小学校教諭）

○　○　○

原稿募集

本誌では昨年と一昨年の五月号に、「私の組の研究」「私の研究」と題して特集してきましたが、大へん好評でしたので、今年も五月号に同じ特集をしたいと思います。現場での研究、何でも遠慮なくお送り下さい。

宛先　東京都文京区大塚町三五
お茶の水女子大学附属幼稚園内
幼児の教育編集係

締切期日　昭和三十二年二月二十日